

別記

(書式1)【候補者用】

① 立候補者の 姓名と所属	岸本充生 大阪大学データビリティフロンティア機構／社会技術共創研究センター
② 立候補の理由と 抱負 (400 字程度)	日本リスク学会は、様々な分野を「リスク」という横串でつなぐという重要な機能を持っています。私は、社会科学系にもかかわらず最初の就職先である産業技術総合研究所でいろんな理系分野の人たちと仕事をする幸運に恵まれ、たまたま多様な分野の仕事に関わらせていただいた経緯から、この「横串でつなぐ」ことは自分の使命だと思っています。そしてこの先はさらに分野を広げて、プライバシーや人権が損なわれるといった、定量評価にはなじみにくいリスク分野についても、リスク評価・管理・コミュニケーションの方法論を確立すべく取り組む予定です。リスク学会にもそうした新しい分野を取り込んでいきたいと考えています。
② 本学会における 活動歴	学会誌への論文は共著も含めて数本。2008年には奨励賞を受賞。2012年以来、理事として事業委員会の委員長を務め、タスクグループの立ち上げにかかわった。また「リスク学事典」の全章査読委員を務めるとともに、共著も含め10項目を執筆した。
④ 研究歴・職歴等 (100 字以内)	工業技術院に就職したのち、産業技術総合研究所化学物質リスク管理研究センター、続いて安全科学研究部門に所属。2014年から2017年まで東京大学公共政策大学院と政策ビジョン研究センター特任教授。2017年4月より現職。

(書式2)【推薦者用】

① 推薦する候補者 名	岸本充生
② 推薦者の 姓名と所属	松尾真紀子 東京大学 公共政策大学院／未来ビジョン研究センター
③ 推薦理由 (400 字程度)	産業技術総合研究所の安全科学研究部門持続可能性ガバナンスグループ研究グループ長を務めた後、東京大学公共政策大学院及び政策ビジョン研究センターを経て、大阪大学に移られた経歴からも明らかのように、岸本氏は、リスク研究にかかわる「実践」の現場と「理論的・学術的」領域に豊富な知識と経験を有す。国内外の最新の政策動向・研究動向に明るく、リスク学に有用な新しいコンセプトや分析枠組みをいち早く取り入れるだけでなく、独創的な切り口で問題を捉える洞察力により、国の政策や学術研究に大きく貢献してきた。リスク研究に必要な幅広いネットワークを持ち、自然科学と社会科学・実践と理論の異分野をつなぐ「総合知」を自ら体現している。リスク学会におけるリスク学事典の編集やシンポジウムの企画開催等で常に主導的な役割を果たしてきた実行力と実績は言うまでもなく、リスク学の将来の発展において不可欠な存在であることから岸本氏を理事候補として推薦する。